

キヤノン株式会社

2023年第1四半期 決算説明会

2023年4月26日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2023年1Q実績	P 2~4
■ 2023年最新見通し	P 5~7
■ ビジネスユニット別詳細 (2023年1Q実績/2023年最新見通し)	P 8~14
■ 財務状況	P 15~16
■ サステナビリティへの取り組み	P 17
■ グローバル優良企業グループ構想PhaseVI	P 18
■ 参考資料	P 19~21

2023年 1Q実績のポイント

- 世界経済、当社関連市場ともに想定通りに推移
- 新規事業の成長性と現行事業の収益性維持により、2桁の増収増益

(億円)	2023年 1Q実績	2022年 1Q実績	対前年
売上高	9,711	8,794	+10.4%
売上総利益 (売上総利益率)	4,540 46.8%	3,944 44.9%	+15.1%
経費 (経費率)	3,695 38.1%	3,183 36.2%	
営業利益 (営業利益率)	845 8.7%	761 8.7%	+10.9%
税引前利益	875	677	+29.3%
純利益 (純利益率)	564 5.8%	460 5.2%	+22.7%
USD	132.47	116.33	
EUR	142.10	130.40	

3期連続の増収増益を目指す今年は、地政学的リスクの高まりや、多くの国や地域における急速な利上げなど、外部環境に下振れリスクを抱えながらのスタートでした。

しかし、その後の状況を見ますと、懸念されていたインフレは適切な政策の実行により低下傾向をたどり、個人消費や雇用環境も堅調に推移しました。

当社関連製品の市場についてもコロナ後の正常な状態に戻りつつあり、新規事業は成長性がさらに高まり、ネットワークカメラをはじめ、4つの新規事業全てで2桁を超える増収となって全社売上の伸びを牽引しました。一方、現行事業については、市場規模が微増の中でもカメラやオフィス複合機が高い製品力により売上を伸ばし、部品や物流コストの高騰もピークアウトして収益性を維持できており、会社全体でも2桁の増益となりました。

その結果、売上高は対前年10.4%増の9,711億円、営業利益は10.9%増の845億円、純利益は22.7%増の564億円と、2桁の増収増益を達成しました。

2023年 ビジネスユニット別PL(1Q)

- イメージングはカメラの新製品とネットワークカメラの売上大幅増により収益性が大きく改善
- メディカルは大型装置の設置が進み、増収増益

(億円)		2023年 1Q実績	2022年 1Q実績	対前年
プリンティング	売上高	5,582	5,072	+10.0%
	営業利益 (%)	506 (9.1%)	526 (10.4%)	-3.7%
イメージング	売上高	1,924	1,572	+22.4%
	営業利益 (%)	373 (19.4%)	134 (8.5%)	+178.8%
メディカル	売上高	1,311	1,182	+10.9%
	営業利益 (%)	69 (5.2%)	63 (5.3%)	+8.8%
インダストリアル	売上高	621	685	-9.4%
	営業利益 (%)	74 (12.0%)	122 (17.8%)	-39.2%
その他及び全社	売上高	504	488	+3.4%
	営業利益	-181	-89	-
消去	売上高	-231	-205	-
	営業利益	4	5	-
連結合計	売上高	9,711	8,794	+10.4%
	営業利益 (%)	845 (8.7%)	761 (8.7%)	+10.9%

※2022年年間決算発表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

ビジネスユニット別の実績です。

プリンティングについては、オフィス複合機は昨年から大きく販売台数を伸ばして増収となりましたが、プリンターの消耗品が景気の影響を受け、減益となりました。

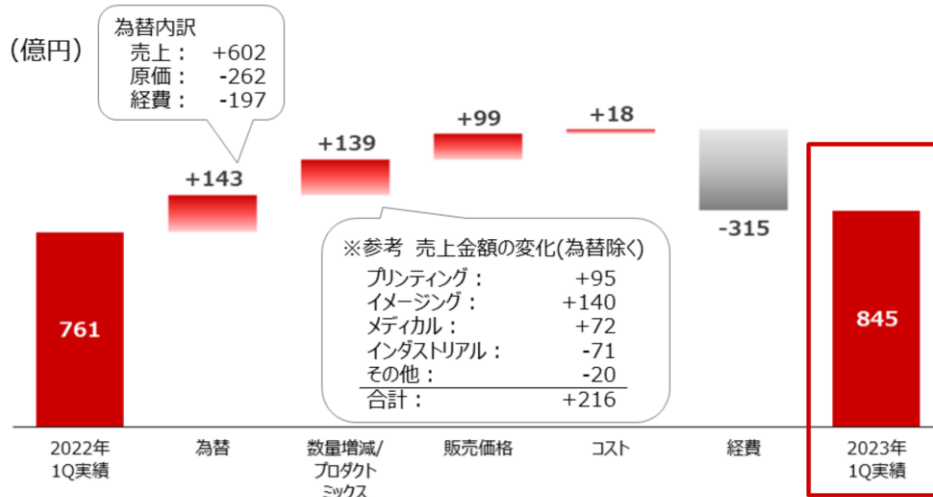
イメージングは、ミラーレスカメラの新製品が販売数量を伸ばしてプロダクトミックスが改善し、ネットワークカメラが売上を約5割伸ばしたことで、全体で20%を超える増収となり、利益率は19.4%まで高まりました。

メディカルは、需要の回復してきた大型の画像診断装置の設置を進め、増収増益となりました。

インダストリアルは、顧客の投資調整局面にあるFPD露光装置の販売台数減少などにより、減収減益となりました。

2023年 営業利益分析(1Q)対前年

- 数量増減はオフィス複合機、メディカル、ネットワークカメラが貢献
- 経費は売上増に伴う販売関連経費及び研究開発費が増加



営業利益の変化を要素別に見ますと、

「為替」は円安で推移し、143億円のプラス影響となります。

「数量増減」については、オフィス複合機やメディカル、ネットワークカメラを中心に売上を伸ばし、増益に貢献しました。

「販売価格」は、コスト高に対する価格対応を維持、製品によってはさらに進めたことで、対前年では99億円の増益要因となりました。

「経費」については、昨年は米国販売会社のオフィス売却による一時的な収益があったことに加え、売上増に伴う販売関連経費、そして新規事業を中心に研究開発投資を進めたため、前年から315億円増となりました。

2023年 見通しのポイントと全社PL

- 高い製品力で業績を伸ばし、3期連続の増収増益を目指す
- 好調なイメージングと経費抑制により、売上/利益ともに上方修正

(億円)	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
売上高	43,130	40,314	+7.0%	42,870	+260
売上総利益 (売上総利益率)	19,800 45.9%	18,278 45.3%	+8.3%	19,700 46.0%	+100
経費 (経費率)	16,000 37.1%	14,744 36.5%		16,100 37.6%	+100
営業利益 (営業利益率)	3,800 8.8%	3,534 8.8%	+7.5%	3,600 8.4%	+200
税引前利益	4,100	3,524	+16.3%	3,900	+200
純利益 (純利益率)	2,850 6.6%	2,440 6.1%	+16.8%	2,700 6.3%	+150
USD	130.00	131.66		130.00	
EUR	140.00	138.42		140.00	

2023年2Q-4Qの為替影響額 (1円の変動による影響)	
売上	営業利益
USD 97億円	27億円
EUR 51億円	24億円

通期の業績見通しで、前提となる為替レートは、1ドル 130円、1ユーロ 140円と前回見通しから変えていません。

世界経済についても見通しは不透明ながら、1月の決算発表時と同様、政策や金融緩和の効果などにより、年後半も緩やかながらも成長が継続すると想定しています。

当社製品の総じて堅調な需要に対し、部品逼迫の緩和により製品供給量も増えるため、高い製品力を生かし、年後半から各事業とも売上をさらに伸ばしていく計画であり、売上好調なイメージングについては見通しを引き上げます。

また、部品や物流コストは、第2四半期以降徐々に低下する見込みであり、経費については光熱費や輸送費の増加を抑え、前回に比べ100億円改善できる見通しです。

年間の業績見通しについては、売上高で260億円、営業利益で200億円、純利益で150億円、それぞれ上方修正し、売上高は対前年7.0%増の4兆3,130億円、営業利益は7.5%増の3,800億円、純利益は16.8%増2,850億円と、3期連続の増収増益を目指してまいります。

2023年 ビジネスユニット別PL(年間)

- 4ビジネスユニットともに増収増益
- イメージングは売上260億円、営業利益100億円上方修正
- メディカルは過去最高業績を更新

(億円)		2023年 最新見直し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見直し	対前回
プリンティング	売上高	23,688	22,726	+4.2%	23,688	0
	営業利益 (%)	2,318 (9.8%)	2,124 (9.3%)	+9.1%	2,318 (9.8%)	0
イメージング	売上高	9,011	8,035	+12.1%	8,751	+260
	営業利益 (%)	1,387 (15.4%)	1,266 (15.8%)	+9.5%	1,287 (14.7%)	+100
メディカル	売上高	5,707	5,133	+11.2%	5,707	0
	営業利益 (%)	434 (7.6%)	310 (6.0%)	+40.0%	434 (7.6%)	0
インダストリアル	売上高	3,520	3,292	+6.9%	3,520	0
	営業利益 (%)	618 (17.6%)	580 (17.6%)	+6.5%	618 (17.6%)	0
その他及び全社	売上高	2,244	2,123	+5.7%	2,244	0
	営業利益	-950	-738	-	-1,050	+100
消去	売上高	-1,040	-995	-	-1,040	0
	営業利益	-7	-8	-	-7	0
連結合計	売上高	43,130	40,314	+7.0%	42,870	+260
	営業利益 (%)	3,800 (8.8%)	3,534 (8.8%)	+7.5%	3,600 (8.4%)	+200

※2022年年間決算発表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

4つのビジネスユニットともに、増収増益を計画しています。

プリンティングは、底堅い需要に対し下期にかけてオフィス複合機やインクジェットプリンターの拡販に努めるとともに、収益性の向上に努めます。

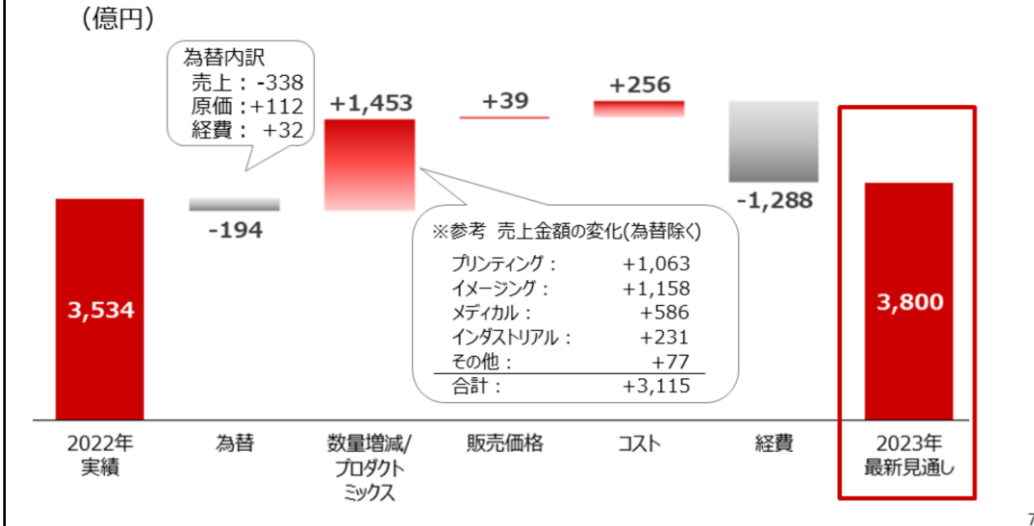
イメージングは、ミラーレスカメラの新製品の販売が好調でプロダクトミックスが改善し、ネットワークカメラについても高い成長率を継続しているため、売上を260億円、営業利益を100億円、前回見直しから引き上げました。

メディカルは米国の販売力強化の成果として売上拡大を実現して利益率を高め、昨年の最高業績の更新を目指します。

インダストリアルは、生産能力を増強した半導体露光装置が、投資の端境期にあるFPD露光装置の減少をカバーし、増収増益を見込んでいます。

2023年 営業利益分析(年間)対前年

- 数量増減は4ビジネスユニット全て売上増によって増益
- 経費は拡販や今後の業績拡大の開発費を投入



営業利益の変化を要素別に見ますと、

「為替」は、194億円のマイナス影響となります。

「数量増減」については、4つのビジネスユニット全てで増収を見込んでおり、プラスに寄与します。

「販売価格」については、高い製品競争力を背景に、維持に努めてまいります。

「コスト」は、部品、物流ともに低下傾向に転じており、256億円の増益要因となります。

「経費」については、売上目標を達成するための販促費や要員の増加、さらには4つの新規事業や産業別グループの新たな事業領域拡大のための開発投資もきちんと実行することで、前年から増加する見込みです。

- 1Qは製品供給量の回復により、昨年から販売台数大幅増
- 幅広くプリンティング機器を揃える強みを活かし、シェア拡大を目指す

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,333	1,940	+20.2%	9,611	8,889	+8.1%	9,611	0
プロシューマー	2,379	2,399	-0.8%	10,298	10,213	+0.8%	10,298	0
プロダクション	870	733	+18.7%	3,779	3,624	+4.3%	3,779	0
売上高計	5,582	5,072	+10.0%	23,688	22,726	+4.2%	23,688	0
営業利益	506	526	-3.7%	2,318	2,124	+9.1%	2,318	0
%	9.1%	10.4%		9.8%	9.3%		9.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+12.8%	+8.4%
プロシューマー	-6.3%	+2.5%
プロダクション	+7.6%	+4.8%
合計	+3.0%	+5.2%

■ 対前年台数伸び率

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
オフィス複合機	+28%	+7%



『imageRUNNER ADVANCE DX C5800』シリーズ

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含んでいたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を逆戻しして組み替えています。

オフィス複合機は、高画質・高速印刷、高耐久性の点からオフィスにおける業務効率の高いプリント機器として今後も底堅い需要が見込まれます。

当社の第1四半期は、前年と比べ製品の供給量が大きく回復し、販売台数を28%伸ばしました。プラットフォームの共通化を図った際に刷新した現在の製品ラインアップは、メンテナンス性や省電力など市場から高い評価を受けています。また、A3モデル、A4モデル、さらにプリンターまで幅広くプリンティング機器を揃える強みを生かし、トータルソリューションを提案することで商談を有利に進め、マーケットシェアを高めてきており、今年も市場成長率を上回る7%増の本体販売台数を目指していきます。

サービス売上についても、オフィスへの出社人数が回復していなかった昨年と比べて1年を通して上回る見通しであり、さらに顧客先での稼働台数増による積み増しを図っていきます。

プリンティング（プロシューマー）

- レーザー：A4サイズ 中高速カラー機の拡販を図る
- インクジェット：大容量インクモデルのラインアップ拡充によるシェア拡大

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,333	1,940	+20.2%	9,611	8,889	+8.1%	9,611	0
プロシューマー	2,379	2,399	-0.8%	10,298	10,213	+0.8%	10,298	0
プロダクション	870	733	+18.7%	3,779	3,624	+4.3%	3,779	0
売上高計	5,582	5,072	+10.0%	23,688	22,726	+4.2%	23,688	0
営業利益 %	506 9.1%	526 10.4%	-3.7%	2,318 9.8%	2,124 9.3%	+9.1%	2,318 9.8%	0

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+12.8%	+8.4%
プロシューマー	-6.3%	+2.5%
プロダクション	+7.6%	+4.8%
合計	+3.0%	+5.2%

■ 対前年台数伸び率

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
LP	-24%	-5%
インクジェット	-18%	+10%



大容量インクモデル
『G3370』シリーズ

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

9

働く場所の分散化によりプリントニーズが多様化し、それぞれのオフィスに適したプリンティング機器が求められるようになってきています。

レーザープリンターは第1四半期、景気の影響を受けて、ローエンドモデルを中心に本体販売台数が減少し、消耗品売上も減少して全体でも減収となりましたが、販売単価の高い中高速カラー機が伸びて製品ミックスは改善しています。

先日、中小企業をターゲットとした新シリーズと、オフィスの規模に応じ印刷スピードや給排紙オプションなどをカスタマイズできる新シリーズ、2つのA4サイズのカラー中高速機を同時に発表しました。耐久性や省電力で優位性のある新トナーを採用し、従来機種に比べて本体サイズを小型化しながら印刷スピードを速めたことで、顧客の生産性向上に繋がる製品になっています。第2四半期以降、プリントボリュームの多いカラー中高速機を含め販売台数を伸ばし、消耗品売上にもつなげていきます。

インクジェットプリンターについても、中小企業や特定オフィス、さらに在宅勤務の定着による新しいホームユース需要に対応できるように、大容量インクモデルのラインアップ拡充を急ピッチで進めています。新製品の投入に合わせて量販店に対する販売促進策を実施し、この領域でのマーケットシェアの拡大を図ることで、売上を伸ばしていきます。

プリンティング（プロダクション）

- 1Qは、強化してきた製品ラインアップにより、8四半期連続で増収
- グラフィックーツ向け製品拡販による消耗品売上増で安定成長へ

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,333	1,940	+20.2%	9,611	8,889	+8.1%	9,611	0
プロシューマー	2,379	2,399	-0.8%	10,298	10,213	+0.8%	10,298	0
プロダクション	870	733	+18.7%	3,779	3,624	+4.3%	3,779	0
売上高計	5,582	5,072	+10.0%	23,688	22,726	+4.2%	23,688	0
営業利益	506	526	-3.7%	2,318	2,124	+9.1%	2,318	0
%	9.1%	10.4%		9.8%	9.3%		9.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+12.8%	+8.4%
プロシューマー	-6.3%	+2.5%
プロダクション	+7.6%	+4.8%
合計	+3.0%	+5.2%



グラフィックーツ向け大判プリンター
『Colorado M-シリーズ』

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

10

金利上昇により投資に慎重になっている中小の印刷会社もありますが、当社は顧客の声を反映して継続的に強化してきた製品ラインアップにより第1四半期も販売数量を伸ばし、サービス収入も増加したことで、8四半期連続で増収となりました。

製品ラインアップの強化の一環として、グラフィックーツ向け大判プリンター「Colorado M」を第2四半期から発売します。製品のモジュール化により印刷スピードや両面印刷、ホワイトインクの追加など様々な機能の組み合わせが可能であり、顧客のニーズに幅広く対応できるため、取り扱いディーラー数の拡大と合わせて、この分野でのさらなるシェアアップを図っていきます。

消耗品使用の多いグラフィックーツ向け製品を中心に、今年も年間で本体の売上を2桁伸ばし、安定成長、収益性の向上へとつなげていきます。

イメージング（カメラ）

Canon

- 1Qはミラーレスの新製品でプロダクトミックス改善、年間売上を上方修正
- EOS Rシリーズ初のエントリーモデル投入で、ユーザーのすそ野を拡大

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
カメラ	1,100	1,015	+8.5%	5,606	5,097	+10.0%	5,446	+160
ネットワークカメラ他	824	557	+47.8%	3,405	2,938	+15.9%	3,305	+100
売上高計	1,924	1,572	+22.4%	9,011	8,035	+12.1%	8,751	+260
営業利益	373	134	+178.8%	1,387	1,266	+9.5%	1,287	+100
%	19.4%	8.5%		15.4%	15.8%		14.7%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
カメラ	-0.4%	+12.0%
ネットワークカメラ他	+32.9%	+16.2%
合計	+11.4%	+13.5%

■ 対前年台数伸び率 (単位：万台)

	2023年1Q実績 台数	2023年1Q実績 伸び率	2023年最新見通し 台数	2023年最新見通し 伸び率
レンズ交換式	56	-6%	290	+1%



EOS Rシリーズ最小・最軽量の

『EOS R50』

11

旅行・行楽需要が回復する中でカメラの需要は底堅く、各社のミラーレス新製品が購買意欲を喚起しています。

当社の第1四半期は、「EOS R7」や「EOS R10」「EOS R6 Mark II」など昨年発売したミラーレスカメラの新製品が販売台数を増やし、プロダクトミックスが改善されたことで、増収となりました。製品力の強化は販売促進費の抑制にもつながり、これまで進めてきた開発の選択と集中、販売組織の効率化とともに収益性を大きく向上させる原動力となっています。

今年もミラーレスカメラEOS Rシリーズの本体・レンズともにラインアップ拡充を図っていきますが、3月には、シリーズ最小・最軽量で持ち運びしやすく、Vlogにも便利な動画撮影機能を充実させた『EOS R50』を発売し、これからカメラを始める方や、気軽にカメラを楽しみたい方から好評を得ています。

今年の市場規模は585万台を見込んでおり、当社は、プロやハイアマチュア向けに加え、カメラユーザーのすそ野を広げるモデルも投入することで前回見通しと同じ前年比+1%年間290万台の販売台数を計画しています。売上についてはプロダクトミックスの改善を反映し160億円上方修正し、2桁の成長を目指してまいります。

- 1Qのネットワークカメラは、昨年4Qに次ぐ高い売上を達成
- SPADセンサー、ポリュメトリックビデオなど新ビジネスの立ち上げが進む

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
カメラ	1,100	1,015	+8.5%	5,606	5,097	+10.0%	5,446	+160
ネットワークカメラ他	824	557	+47.8%	3,405	2,938	+15.9%	3,305	+100
売上高計	1,924	1,572	+22.4%	9,011	8,035	+12.1%	8,751	+260
営業利益	373	134	+178.8%	1,387	1,266	+9.5%	1,287	+100
%	19.4%	8.5%		15.4%	15.8%		14.7%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
カメラ	-0.4%	+12.0%
ネットワークカメラ他	+32.9%	+16.2%
合計	+11.4%	+13.5%



SPADセンサーを搭載した
超高感度カメラ「MS-500」



ポリュメトリックビデオシステムで
撮影したイメージ

12

ネットワークカメラの市場は、人々の安心安全を求めるニーズの高まりにより、セキュリティ分野を中心に成長が続いており、当社の第1四半期の売上は計画を上回って昨年の第4四半期に次ぐ高い水準となり、大幅な増収となりました。引き続き、豊富な本体ラインアップとソリューションにより需要を取り込み、年間計画を100億円引き上げ、15%以上の売上成長を目指していきます。

また、イメージングの事業領域拡大を目指し、様々なビジネスの立ち上げを進めていますが、その成果が着実に表れてきています。

当社は320万画素の高精細なSPADセンサーの開発に成功しておりますが、3月には世界で初めてこのSPADセンサーを搭載した超高感度カメラの開発発表を行いました。捉えた光子を増幅させることで暗闇でも鮮やかなカラー撮影ができ、豊富なレンズと組み合わせれば遠方の撮影まで可能となるため、国境や港湾、発電所といった重要なインフラ施設の監視など、成長が期待できる分野への展開を目指しています。

他にも、複数のカメラで撮影した映像を瞬時に生成し、360度自由な視点からの3D映像を提供できるポリュメトリックビデオシステムを東京ドームに今シーズンから常設しました。すでに野球放送の一部として使用されており、引き続き活用範囲を広げ、ビジネスとして確立していきます。

- 1Qは生産・設置を着実に進め、計画通りの2桁増収
- 販売力強化を図った米国を中心に売上成長、利益率向上へ

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
売上高計	1,311	1,182	+10.9%	5,707	5,133	+11.2%	5,707	0
営業利益 %	69 5.2%	63 5.3%	+8.8%	434 7.6%	310 6.0%	+40.0%	434 7.6%	0

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
合計	+6.1%	+11.4%

MRI



AiCE*と高速撮像技術搭載
『Vantage Galan 3T』 Focus Edition

*ディープラーニングを応用した画像再構成技術

13

2023年の画像診断装置の市場は、コロナの影響で先送りされていたMRIやX線など大型装置への投資が進められることで、通常通りの2%程度の成長を見込んでいます。

当社の第1四半期については、昨年から大きく伸ばしてきた受注に対し、部品不足や医療機関の受け入れ体制の遅れなどの影響を受ける中でも生産・設置を着実に進めた結果、計画通り2桁の増収となりました。

今年はこれまで進めてきた米国での販売力強化を受注獲得、売上拡大につなげていく時期となります。販売要員の増加と販売テリトリーの再編によりカバーしている医療機関は広がっており、商談中の案件が大きく増加しています。これまで強化を図ってきた製品ラインアップを活用し、第2四半期以降成長を加速させ、事業全体で、年間11.2%の売上成長を目指していきます。

利益については、本体の売上拡大による粗利の増加に加え、下期からは昨年後半に販売数量を伸ばした大型装置の保守・サービス収入が見込まれます。さらに、先日取得を発表した、体外診断用医薬品や検体検査の自動分析装置を手掛けるミナリスメディカル社の業績貢献や、原価低減活動の成果も現れてくることで、年間では7.6%まで営業利益率を高めていきます。

- 半導体露光装置は、生産能力増強で195台の販売を計画
- パネル向け装置は、2024年からの拡大期へ向け準備を進める

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
光学機器	400	488	-17.9%	2,292	2,404	-4.7%	2,292	0
産業機器	221	197	+11.8%	1,228	888	+38.3%	1,228	0
売上高計	621	685	-9.4%	3,520	3,292	+6.9%	3,520	0
営業利益	74	122	-39.2%	618	580	+6.5%	618	0
%	12.0%	17.8%		17.6%	17.6%		17.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
	光学機器	-19.1%
産業機器	+11.4%	+38.5%
合計	-10.4%	+7.0%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2023年 1Q実績	2022年 1Q実績	2023年 最新見通し	2022年 実績
	半導体	29	29	195
FPD	8	13	33	51



半導体露光装置
『FPA-5550iX』

14-1

半導体デバイス市場は、メモリの需給調整局面が続き2023年は一時的に縮小する見通しですが、パワーデバイスやアナログデバイス、センサーについては堅調に推移しており、メモリについても価格が底を打ち、回復の兆しが見え始めています。

半導体露光装置につきましては、半導体の中長期的な成長見通しに加え、経済安全保障の点から各国で投資が進み、今年も市場拡大が続く見通しです。

当社は、第1四半期に29台の装置を販売しましたが、増強した生産体制の下で生産を進めており、第2四半期以降は、出荷・販売の時期を迎える装置が大きく増える見通しです。当社は、パワーデバイスやセンサー、後工程など幅広い顧客をカバーしており、メモリ向けの投資の先送りの影響をそれ以外の用途で補うことで、年間で昨年よりも19台多い、195台の販売を目指していきます。

- 半導体露光装置は、生産能力増強で195台の販売を計画
- パネル向け装置は、2024年からの拡大期へ向け準備を進める

(億円)

	1Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
光学機器	400	488	-17.9%	2,292	2,404	-4.7%	2,292	0
産業機器	221	197	+11.8%	1,228	888	+38.3%	1,228	0
売上高計	621	685	-9.4%	3,520	3,292	+6.9%	3,520	0
営業利益	74	122	-39.2%	618	580	+6.5%	618	0
%	12.0%	17.8%		17.6%	17.6%		17.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 1Q実績	2023年 最新見通し
光学機器	-19.1%	-4.6%
産業機器	+11.4%	+38.5%
合計	-10.4%	+7.0%

■ 露光装置台数 (単位: 台)

	2023年 1Q実績	2022年 1Q実績	2023年 最新見通し	2022年 実績
半導体	29	29	195	176
FPD	8	13	33	51



半導体露光装置
『FPA-5550iX』

14-2

ディスプレイ製造装置の市場は、パネルメーカーがテレビやPCの市況低迷により投資を延期しており、2023年は一時的に縮小する見込みです。しかし、市中在庫の状況改善や、ノートPCやタブレットといったITパネルへの有機EL採用の進展により、2024年以降は緩やかに上向いてくることが予想されています。

当社のFPD露光装置も、今年は前年比で販売台数が減少しますが、2024年以降は緩やかな投資の拡大が見込まれるため、当社の強みである大画面一括露光方式や、高解像力、高生産性を訴求し、顧客との商談を進めています。

有機EL蒸着装置についても、ITパネル向けの装置が来年以降伸びてくることが期待されており、中小型パネル向け装置同様、当社が圧倒的なシェアを持てるように開発を進めると同時に、生産・設置体制の効率化も図っていきます。

- 4月以降の拡販に向け、3月末は商品在庫を増量
- 部品・原材料は方針を軌道修正し、第2四半期以降は減少へ

(金額：億円)	2022年				2023年	
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	
プリンティング	金額	3,247	3,536	4,081	3,668	3,725
	日数	58	60	67	56	57
イメージング	金額	1,171	1,266	1,436	1,376	1,636
	日数	63	64	65	56	69
メディカル	金額	1,205	1,294	1,377	1,283	1,363
	日数	89	100	103	85	88
インダストリアル	金額	1,178	1,338	1,374	1,240	1,330
	日数	131	166	152	124	154
その他及び全社	金額	531	547	571	516	534
合計	金額	7,332	7,981	8,839	8,083	8,588
	日数	73	78	81	69	74

15

3月末の商品在庫は、4月以降の拡販に向け、ネットワークカメラやメディカル、半導体露光装置などで増量を図ったため、昨年の12月末と比べて300億円強増加しています。

部品と原材料については、昨年来、半導体を始めとする部品や部材の逼迫に対応し、出来る限り早期に確保をする動きを取ってきましたが、状況は緩和してきており、一部の製品を除き需要に見合うだけの供給ができるようになっていきます。

第2四半期以降は部品調達・在庫管理の方針を軌道修正し、生産計画に合わせて、必要な在庫のみを保有する体制に戻す予定です。調達見通しが不透明な一部の部品・部材を除いて通常の在庫水準に戻していく計画ですので、商品在庫を含む全体の在庫金額も、3月末の水準から年末に向け減少していく見込みです。

キャッシュフロー(年間)

- 6,000億円超の営業CF、約2,500億円の投資CFを見込む
- 借入金返済と、配当性向50%を目途に積極的な株主還元を継続

(億円)	2023年 最新見通し	2023年 前回見通し	2022年 実績	2021年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	6,260	6,110	2,626	4,510
投資活動によるキャッシュフロー	-2,500	-2,350	-1,808	-2,072
フリーキャッシュフロー	3,760	3,760	818	2,438
財務活動によるキャッシュフロー	-3,791	-3,791	-1,468	-2,674
為替変動影響	-10	-10	257	173
現預金の純増減額	-41	-41	-393	-63
現預金の期末残高	3,580	3,580	3,621	4,014
手元回転月数(※)	1.0	1.0	1.0	1.3
設備投資	2,400	2,400	1,833	1,790
償却費	2,400	2,400	2,265	2,212

※ 2023年は年間売上高で算出。2022年および2021年は下期売上高で算出

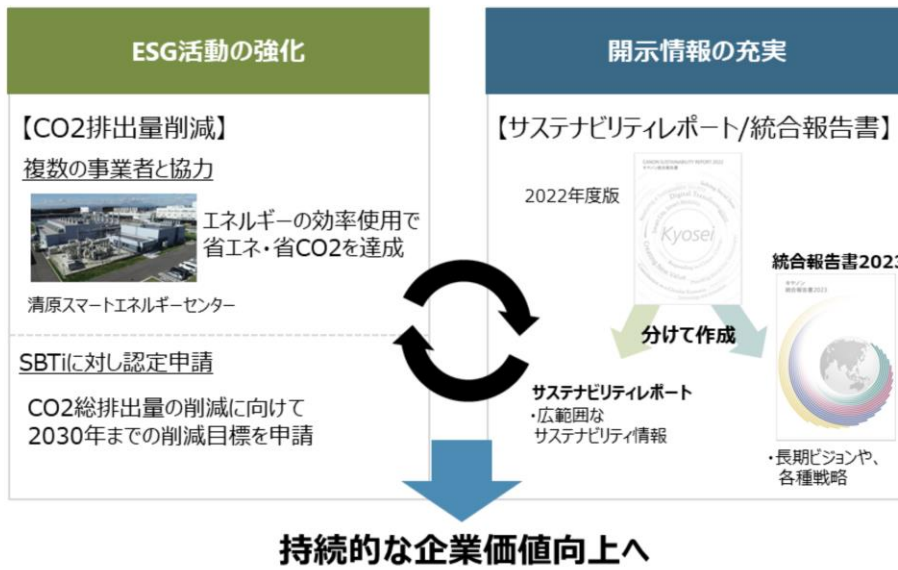
16

今年純利益の見通しを150億円引き上げ、2,850億円を見込むのに加え、昨年増加した在庫と売掛金が減少することで、6,260億円の営業キャッシュフローを計画しています。

投資については、CMOSセンサーや半導体露光装置の工場建設やメディカル事業のM&Aを含め、合計2,500億円を将来の成長のために使用する計画であり、年初計画同様、3,760億円のフリーキャッシュフローを見込んでいます。

これを原資に借入金を完済するとともに、株主還元についても、配当性向50%を目途として、安定的かつ積極的な配当を行ってまいります。

- ESG活動強化と開示情報充実で、持続的な企業価値向上を目指す



17

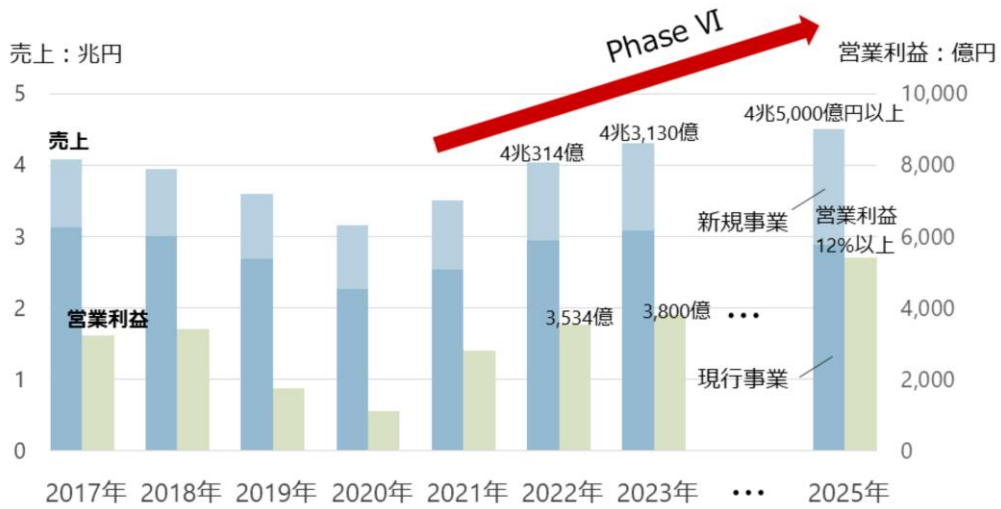
当社は、持続的に企業価値を高めていくためには、ESG活動そのものの強化と、開示情報の充実を合わせて行っていくことが重要であると考えています。

CO2排出量削減の取り組みとして、レンズや露光装置の工場がある栃木県宇都宮市の清原工業団地において、業種の異なる複数の事業者と協力し、電力や蒸気の使用状況に応じ地域全体でエネルギーの効率化を図りました。省エネ・省CO2を達成したことが評価され、3月には今年で31回目を迎える「地球環境大賞」において「経済産業大臣賞」を受賞しました。また、当社はこれまで製品1台当たりのライフサイクルCO2改善を指標としてきましたが、それに加え事業活動を通じて排出されるCO2総排出量についても2030年までの削減目標を策定し、科学的根拠に基づく目標認定機関であるSBTiに対し認定のための申請を行っています。

開示情報の充実としては、サステナビリティ情報を広範囲にわたって開示するサステナビリティレポートと、投資家の関心の高い長期ビジョンや価値創造、事業戦略と研究開発、財務、人材、知的財産の各戦略をまとめた統合報告書を今年から分けて作成しています。統合報告書の2023年版については本日からホームページ上で公開しておりますが、今後もステークホルダーに対し適切な情報を発信していきます。

グローバル優良企業グループ構想 Phase VI Canon

■ 3期連続の増収増益を果たし、2025年の業績目標達成に繋げる



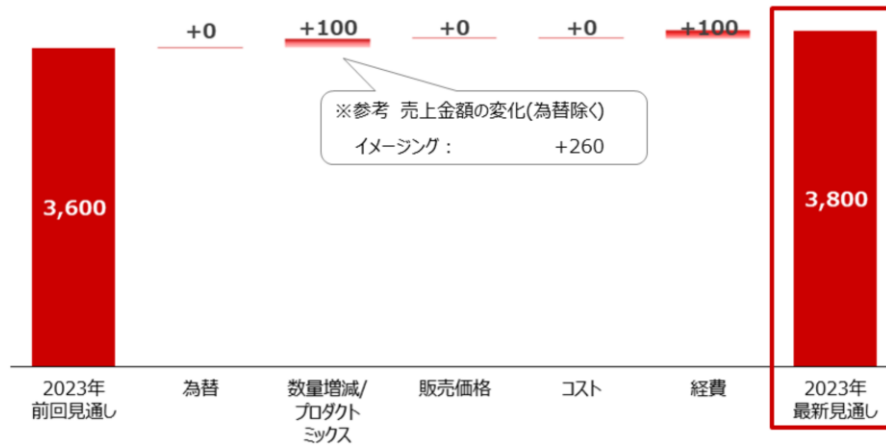
「グローバル優良企業グループ構想Phase6」の折り返しにあたる今年の第1四半期は5四半期連続の増収増益となり、収益性についても高い水準を維持し、順調なスタートを切ることができました。

第2四半期以降も、新規事業の成長と現行事業の高い収益性を持続させ、過去最高の2007年に次ぐ売上を上げるとともに、利益も伸ばして3年連続の増収増益を果たし、その先にある2025年の業績目標の達成につなげてまいります。

參考資料

2023年 営業利益分析(年間)対前回

(億円)



■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2023年			2022年	
			1Q 実績	年間 最新見通し	年間 前回見通し	1Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	円貨	ハード	+39%	+11%	+11%	-4%	+30%
		ノンハード	+12%	+5%	+5%	+6%	+10%
	LC	ハード	+27%	+12%	+12%	-9%	+17%
		ノンハード	+4%	+5%	+5%	+3%	+2%
LP	円貨	ハード	+15%	+2%	+2%	+7%	+34%
		ノンハード	-7%	-5%	-5%	+11%	+6%
	LC	ハード	+8%	+5%	+5%	+2%	+19%
		ノンハード	-10%	-3%	-3%	+7%	-2%
インクジェット	円貨	ハード	-9%	+9%	+9%	+24%	+34%
		ノンハード	+2%	+3%	+3%	-9%	-7%
	LC	ハード	-16%	+10%	+10%	+17%	+21%
		ノンハード	-7%	+3%	+3%	-13%	-15%
プロダクション	円貨	ハード	+19%	+11%	+11%	+17%	+30%
		ノンハード	+18%	0%	0%	+15%	+23%
	LC	ハード	+8%	+12%	+12%	+11%	+15%
		ノンハード	+8%	+1%	+1%	+9%	+10%

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2023年の伸び率は前年を組み替えた前提で表示しています。

■ オフィス/プロシューマー 製品別売上高

(億円)

		2023年		2022年	
		1Q 実績	年間 最新見通し	1Q 実績	年間 実績
オフィス	オフィス複合機	1,437	6,144	1,163	5,678
	オフィスその他	896	3,467	777	3,211
		2,333	9,611	1,940	8,889
プロシューマー	LP	1,511	6,384	1,502	6,512
	インクジェット	868	3,914	897	3,701
		2,379	10,298	2,399	10,213

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

		2023年		2022年	
		1Q 実績	年間 最新見通し	1Q 実績	年間 実績
	KrF	8	59	9	51
	i線	21	136	20	125
	合計	29	195	29	176

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。